

第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號、第二號及第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ慣行ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五十條 漁業權者其ノ他ノ利害關係者ハ免許漁業原簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下付ヲ行政官廳ニ申請スルコトヲ得

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第五十一條 水産動物ヲ疲憊若ハ斃死セシムヘキ有毒物又ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ捕鯨ノ爲メ爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前條ノ規定其ノ他漁業法第十三條ニ依ル命令ハ官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試験ノ爲水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 漁業法第十三條ニ依ル命令ハ養殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ

因リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ水産動植物ノ採捕ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所

ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十五條 定置漁業及特別漁業ニ關シテハ行政官廳ハ漁場取締ノ爲命令ヲ以

テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域内ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行爲ノ禁止又ハ制限ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

地方長官前二項ノ命令ヲ發スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五十六條 左ニ掲ケタル漁業ハ其ノ漁業ヲ爲ス水面ヲ管轄スル地方長官ノ許

可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 藻手繰網漁業

二 藻打瀬網漁業

三 藻曳網漁業

第二類 漁業法施行規則

四 潜水器漁業

五 空釣繩漁業

前項漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十七條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第五十八條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セムト

スル者ハ事由ヲ具シ其ノ土地ヲ管轄スル島司又ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地カ島司又ハ郡長ノ管轄ニ屬セサルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受

クヘシ

前二項ノ規定ハ漁場標識ノ建設ヲ命セラレタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五十九條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スル者

ハ其ノ認可書又ハ命令書ヲ携帯スヘシ

第六十條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第六十一條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標示ヲ爲スヘシ

第五章 裁決

第六十二條 漁業法第二十五條第一項ニ依リ爭議ノ裁決ヲ受ケムトスル者ハ免

許ヲ與ヘタル行政官廳ニ申請スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異

ナルトキハ農商務大臣ニ申請スヘシ

第六十三條 前條ノ裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 申請者及爭議ノ相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二 申請ノ目的及理由

三 立證

第六十四條 爭議ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請

ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第二類 漁業法施行規則

第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三十三條第一項、第五十一條、第五十四條又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ

二 第四十四條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權ノ貸付又ハ漁業權共有者ノ持分ノ相續、讓渡、共有者ハ貸付ノ登録ヲ申請セサルトキ

三 第四十五條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權、登録シタル入漁者若ハ借主ノ權利又ハ漁業權共有者、登録シタル共同入漁者若ハ共同借主ノ持分ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關スル届出ヲ爲ササルトキ

四 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物ヲ採捕シタルトキ

五 禁漁區ノ標示ヲ移轉シ又ハ毀壞シタルトキ

第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第三十一條、第三十三條第二項、第三十五條第一項又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ

二 前條第二號ノ場合ヲ除クノ外本則ノ規定ニ依リ登録スヘキ事項ノ登録ノ申請ヲ怠リタルトキ

附則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條 本則施行前ニ於テ漁業ニ關シ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法又ハ本則ニ依リ發シタルモノト看做ス

第六十九條 漁業法第三十三條ニ該當スル者ハ本則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政官廳ニ免許期間ノ指定ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ササル者ハ廢業シタルモノト看做ス

第七十條 第二十一條第一項、第二十三條、第二十四條、第二十八條、第三十八條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前條ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條 獨立シタル區ヲ爲ササル濱、浦、漁村又ハ漁業者ノ部落ニシテ從來

第二類 漁業法施行規則

ノ慣行ニ因リ漁業免許ヲ受ケムトスルトキハ漁業組合ヲ組織シテ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スヘシ

第七十二條 本則施行前ヨリ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ鑑札ノ下付ヲ受ケサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑑札ノ下付ヲ受ケル迄ノ間鑑札ヲ携帯セスシテ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 本則施行前ヨリ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ許可ヲ出願シタルトキハ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間仍從處ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 地方長官ハ本則ニ規定スルモノノ外農商務大臣ノ認可ヲ得テ漁業ニ關スル出願、申請又ハ届出ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第七十五條 本則中市、町、村、町村組合及市町村内ノ區ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ區、町、村及區町村内ノ部沖繩縣ニ於テハ區、間切、島、間切島組合及區間切島内ノ部ニ之ヲ適用ス

●漁業組合規則

(明治三十五年五月十七日) 農商務省令第八號

漁業組合規則左ノ通相定ム

漁業組合規則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ漁業組合ト稱スルハ漁業法第十八條ニ依リ設置スル組合ヲ謂フ

第二條 組合ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及漁業組合ナル文字ヲ附スヘシ
漁業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス

第三條 組合ノ地區ハ互ニ重複スルコトヲ得ス

第二類 漁業組合規則

第四條 組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ノ一部ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ下級行政官廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第二章 組合ノ設置

第六條 組合ヲ設置セムトスルトキハ地區内ニ住所チ有スル漁業者五名以上發起人ト爲リ其ノ地區内ニ住所チ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ規約ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 發起人前條第一項ノ同意ヲ求メムトスルトキハ左ノ事項ヲ地區内ニ住所チ有スル漁業者ニ通知スヘシ

一 地區

二 享有行使セムトスル漁業權

三 同意表示ノ方法及期間

第八條 第六條第一項ノ同意又ハ同條第二項ノ認可アリタルトキハ發起人ハ規約並初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徵收法ニ關スル議案ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第九條 發起人創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的、日時及場所並規約案備附ノ場所及閱覽ノ時間ヲ組合員タルヘキ者ニ通知スヘシ

一 目的

二 名稱、地區及事務所ノ位置

三 組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

四 役員ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定

第二類 漁業組合規則

- 六 會計ニ關スル規定
- 七 漁業權ノ享有行使及之ニ對スル組合員ノ漁業ニ關スル規定
- 八 違約者處分ニ關スル規定
- 九 組合員ノ遭難救恤ニ關スル事項ヲ定メタルトキハ之ニ關スル規定
- 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 第十一條 規約ハ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス
- 第十二條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得
- 前項ノ受任者ハ委任狀ヲ發起人ニ差出スヘシ
- 第十三條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徴收法、第六條ニ

定メタル同意アリタルコトヲ證スル書類及創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十四條 組合ノ設置ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ位置ヲ公告スヘシ之ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三章 組合ノ管理

第十五條 組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ初回ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

理事及監事ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 理事ハ組合ノ事務ニ付組合ヲ代表ス但シ組合ト利益相反スル事項ニ

付テハ此ノ限ニ在ラス

理事數人アル場合ニ於テハ組合ノ事務ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 理事ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ

得ス

- 一 經費ノ豫算及賦課徴收法ヲ定ムルコト
- 二 漁業權又ハ不動産ニ關スル權利ノ得喪、變更ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 三 基金ノ利用方法ヲ定メ又ハ其ノ支出ヲ爲スコト
- 四 豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ負債ヲ起スコト
- 五 組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付シ又ハ之ト入流ノ契約ヲ爲スコト
- 六 組合員ヲ除名スルコト
- 七 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコト

八 基金ヲ預入ルヘキ銀行ヲ定ムルコト

第二十條 理事ハ經費ノ決算、財産目錄、事業報告書並基金ノ積立及剩餘金ノ分配ニ關スル議案ヲ調製シ監事ノ意見書ト共ニ之ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ承認ヲ得タルトキハ理事ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 理事ハ規約、前年度ニ於ケル經費ノ決算、其ノ年度ニ於ケル經費ノ豫算、組合員名簿及總會ノ決議録ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 監事ハ理事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第二十三條 監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監査ス

第二十四條 監事財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ態アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク之ヲ總會又ハ監督官廳ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲ス爲必要アルトキハ總會ヲ招集スルコトヲ得

第二類 漁業組合規則

第二十五條 理事其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ理事ノ缺ケタルトキハ

監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得ス

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合

員中ヨリ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 理事ハ毎年度少クトモ一回通常總會ヲ開クヘシ

第二十八條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキ

ハ理事ハ臨時總會ヲ招集スヘシ但シ此ノ定數ハ規約ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ

得

第二十九條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ會日ノ三日前ニ各組合員ニ對シテ其

ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ會議ノ目的及事項ヲ記載スヘシ

總會ニ於テハ前二項ニ依リテ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコト

ヲ得但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合員ハ各一箇ノ議決權ヲ有ス

第三十一條 組合ト或組合員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員

ハ議決權ヲ有セス

第三十二條 總會ノ決議ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合

員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 左ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ

ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 規約變更ノ決議

二 解散ノ決議

三 第十七條、第十九條第二號乃至第六號及第五十八條ノ決議

四 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコトノ決議

前項第一號乃至第三號ノ決議並經費ノ豫算及賦課徵收法ノ決議ハ地方長官ノ

第二類 漁業組合格則

認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十四條 第十二條ノ規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第三十五條 總會カ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ理事ハ事情ヲ具シテ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ總會ノ決議ニ代ルヘキ命令ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 總會ノ決議法令若ハ規約ニ違背シ又ハ組合員共同ノ利益ヲ害スト

認ムルトキハ理事ハ其ノ執行ヲ停止シ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第四章 組合ノ會計

第三十七條 組合ニハ收入役ヲ置クヘシ但シ收支寡少ナル組合ニ於テハ地方長

官ノ認可ヲ得テ之ヲ置カサルコトヲ得

收入役ハ總會ニ於テ之ヲ選任シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ初回ノ收入役

ハ創立總會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第三十七條及第三十三條ノ規定ハ收入役ノ解任ニ之ヲ準用ス

第三十八條 收入役ハ理事、監事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十九條 收入役其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ收入役ノ缺ケタルト

キハ理事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ互ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ收入役ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假收入役ヲ選

任シ收入役ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十條 收入役ハ組合ノ出納ヲ掌リ會計ノ事務ヲ整理ス

第四十一條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ收入役ヲシテ身元保證金ヲ供セシム

ルコトヲ得

第四十二條 收入役ハ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ爲スコトヲ得ス

理事カ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ命シタルトキハ收入役ハ之ヲ地方長官ニ

具申シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第四十三條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十四條 組合ノ經費ノ豫算及決算ハ別ニ定ムル所ノ方式ニ從ヒテ之ヲ調製

第二類 漁業組合規則

スヘシ

第四十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ漁業權ニ依リテ特別ノ利益ヲ受クル組合員ヨリ漁業料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十六條 組合ノ收入其ノ經費ヲ支辨シテ剩餘アルトキハ剩餘金額十分ノ一以上ヲ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ

基金ハ公債若ハ地方債ヲ買得シ又ハ郵便貯金若ハ一定ノ銀行ニ預入ルルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 基金ハ天災、地變其ノ他必要止ムヲ得サル場合又ハ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルコト顯著ナリト認メラルル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第五章 組合員ノ加入、脱退及違約處分

第四十八條 組合ノ地區内ニ一箇年以上住所ヲ有スル者ニシテ組合ニ加入セム

マストトキハ組合ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ミ又ハ其ノ加入ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルコトヲ得ス

第四十九條 組合員ノ家督相續人カ相續ノ日ヨリ三十日以内ニ加入ノ申込ヲ爲シタルトキハ相續ノ日ヨリ組合員タリシモノト看做ス但シ隱居シタル被相續人カ組合ヲ脱退セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約ニ違背シタル組合員ヲ除名シ又ハ之ニ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第五十一條 不當ニ加入ヲ拒マレタル者又ハ不當ニ除名セラレ若ハ過怠金ヲ課セラレタル者ハ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第六章 組合ノ解散及清算

第五十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其ノ他規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 組合ノ目的タル漁業權享有行使ノ不能

第二類 漁業組合規則

三 組合員ノ數カ其ノ地區内ニ住所チ有スル漁業者ノ三分ノ一未滿ト爲リタルトキ但シ地方長官ノ認可チ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四 組合員ノ數カ五人未滿ニ減シタルトキ

五 總會ノ決議

前項第一號乃至第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ理事ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十三條 組合ノ解散アリタルトキハ行政官廳ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第五十五條 組合カ解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人缺ケタルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第五十六條 清算人ノ選任ハ地方長官ノ認可チ受ケヘシ

第五十七條及第三十三條ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第五十八條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務チ有ス

第五十九條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第六十條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作り總會ノ承認ヲ經タル後之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ決算報告書ニハ組合ノ帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添附スヘシ

第七章 組合ノ監督

第六十一條 組合ハ農商務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十二條 監督官廳ハ何時ニテモ理事若ハ清算人ヲシテ組合ノ事業若ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業、清算事務及財産ノ狀況ヲ検査

第二類 漁業組合規則

シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

郡長前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第六十三條 組合ノ行爲法令又ハ規約ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スト認ムルトキ

ハ監督官廳ハ總會ノ決議若ハ組合ノ行爲ノ取消、役員若ハ清算人ノ解任又ハ

組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條 地方長官設置ノ認可若ハ規約變更ノ認可ヲ與ヘ又ハ解散ヲ命シ若

ハ前條第二項ニ依リ解散ノ處分ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務

大臣ニ報告スヘシ

第八章 罰則

第六十五條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ二十五圓以下ノ罰

金ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第二十一條ノ書類ヲ備ヘス又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若

ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第十九條又ハ第五十八條ニ違背シタルトキ

四 第六十二條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令若ハ處

分ニ從ハサルトキ

第六十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人本則ニ規定シタル届出ヲ爲スコトヲ

怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條 本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長、

島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

●漁業ニ關スル手數料ノ件

(明治三十五年六月十二日勅令第百六十號)

第二類 漁業ニ關スル手數料ノ件

朕漁業ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 漁業ニ關シ左ニ掲クル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

- 一 漁業法第三條ニ依ル漁業免許願 每一件 金二圓
 - 二 漁業法第四條ニ依ル漁業免許願 每一件 金五圓
 - 三 漁業免許ノ變更願 每一件 金一圓
 - 四 漁業權處分ノ認可申請 每一件 金一圓
 - 五 漁業法第三條ニ依ル漁業免許ノ期間ノ更新申請 每一件 金一圓
 - 六 漁業法第四條ニ依ル漁業免許ノ期間ノ更新申請 每一件 金二圓
 - 七 免許漁業休業ノ認可申請 每一件 金一圓
 - 八 漁業法第二十五條ニ依ル裁決ノ申請 每一件 金五圓
 - 九 漁業免許期間指定ノ申請 每一件 金一圓
- 第二條 手数料ノ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手数料ノ件

(明治三十五年六月十三日) 農商務省令第十二號

漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手数料左ノ通相定ム

第一條 漁業ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

- 一 漁業免許狀ノ訂正申請書 每一件 金二十錢
- 二 漁業免許狀ノ書換申請書 每一件 金五十錢
- 三 漁業免許狀ノ再下付申請書 每一件 金五十錢
- 四 漁業法施行規則第二十六條又ハ第二十七條ニ依ル入漁者ノ權利ノ登録申請書 每一件 金二圓

第二類 漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手数料ノ件 二百五十七

二百五十八
每一件 金十錢

五 免許漁業原簿ノ閱覽申請書

六 免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下付ノ申請書

謄本、抄本ハ十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢一枚ニ滿タサル
モノ亦同シ

圖面ハ一枚ニ付金三十錢以上金五圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從

テ行政官廳ノ定ムル金額

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附則

第三條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 水産組合規則

(明治三十五年五月十七日)
(農商務省令第九號)

水産組合規則左ノ通相定ム

水産組合規則

第一條 本則ニ於テ水産組合又ハ水産組合聯合會ト稱スルハ漁業法第二十二條

ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ヲ謂フ

第二條 組合及聯合會ニハ漁業法及本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外重要
物産同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯
合會ナル文字ヲ附スヘシ

水産組合又ハ水産組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ水産組合又ハ水産組合
聯合會ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス但シ外國領海水産組合法ニ依ル組合又ハ
聯合會ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合又ハ聯合會ハ漁業權ヲ享有行使スルコトヲ得ス

第五條 組合又ハ聯合會ノ地區一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定
款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算並徵收法及解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ
申請スヘシ

第二類 水産組合規則

二百五十九

地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘムト
スルニキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

地方長官役員ノ選任並經費ノ豫算及徵收法ヲ認可シタルトキハ農商務大臣ニ
之ヲ報告スヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條
及第十五條ノ處分ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算又ハ業務成績ノ
報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治十九年農商務省令第七號漁業組合進則ハ之ヲ廢止ス

第九條 本則施行以前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他

産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ
漁業法及本則ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本則ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本則
施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ認可ヲ管轄行政官廳ニ申請スヘシ

●外國領海水産組合法

(明治三十五年三月二十七日
法律第三十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國領海水産組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國領海水産組合法

第一條 條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ
販賣ヲ業トスル帝國臣民ハ本法ニ依リ水産組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ノ區域ハ利害關係アル營業區域又ハ住所區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同業者三分ノ二以上
ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ受クヘ
シ但シ二種以上ノ營業者相集リテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ

第二類 外國領海水産組合法

三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ外務農商務兩大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 組合ノ設置アリタルトキハ組合、組合聯合會又ハ組合員ノ名ヲ以テスルノ外他人ノ名義ニ依ルト他人ニ雇ハルル者トテ問ハス組合ヲ組織セル營業者ト同一種類ノ營業ニ從事スルノ目的ヲ以テ組合ノ營業區域ニ渡航シ又ハ船舶若ハ漁具ヲ廻送スルコトヲ得ス但シ前條但書ニ依リ加入セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ過料ニ第五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七條 前條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第八條 組合及組合聯合會ニ關シテハ本法ニ規定アルモノノ外重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ外務農商務兩大臣之ヲ行フ

附 則

第九條 本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本法施行以前ニ於テ條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ノ業ニ關シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ組合聯合會ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ第三條ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●外國領海水産組合法施行規則

(明治三十五年三月三十一日)
農商務省令第五號

第二類 外國領海水産組合法施行規則

二百六十三

外國領海水產組合法施行規則左ノ通相定ム

外國領海水產組合法施行規則

第一條 外國領海水產組合法ニ依ル水產組合及水產組合聯合會ニハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外重要物產同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 重要物產同業組合法施行規則ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ行フヘキ職務ハ本則ニ於テハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外外務、農商務兩大臣之ヲ行ヒ地方長官ノ行フヘキ職務ハ營業區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會及外國ニ住所ヲ有スル者ノ組織スル住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄領事又ハ貿易事務官之ヲ行ヒ其ノ他ノ住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄地方長官之ヲ行フ但シ區域カ二以上ノ行政官廳ノ管轄ニ亘ル組合又ハ二以上ノ行政官廳ノ管轄ニ屬スル組合ヲ以テ組織シタル聯合會ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ外務、農商務兩大臣之ヲ行フ

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ外國領海ノ名稱及水產組合又ハ水產組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

合會ナル文字ヲ附スヘシ

第四條 住所區域ニ依ル組合ノ區域ハ北海道、府、縣ノ區域ニ依ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 組合又ハ聯合會ニシテ一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算及徴收法並解散ヲ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ外務、農商務兩大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物產同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算、業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ認可ヲ與ヘタル行政官廳ハ

第二類 外國領海水產組合法施行規則

二百六十五

其ノ名稱、組合ノ區域又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及營業ノ種類ヲ公告スルシ

前項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ組合若ハ聯合會ヲ解散シタルトキハ當該行政官廳ハ其ノ事項ヲ公告スヘシ

附則

第九條 本則ハ外國領海水產組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本則施行以前ニ於テ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ聯合會ニシテ外國領海水產組合法ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本則ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ認可ヲ主務大臣ニ申請スヘシ

●遠洋漁業獎勵法

(明治三十八年二月二十八日法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業獎勵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ毎年度十五萬圓以内ヲ支出ス

第二條 本法ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ其ノ業務ノ種類、場所、期間並船舶ノ構造、噸數及年齡ニ從ヒ率ヲ定メ五箇年ヲ超エサル期間ニ於テ漁業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 汽船總噸數每一噸

二十二圓

一 帆船總噸數每一噸

十八圓

前項ニ掲ケタル船舶ノ船員ハ其ノ五分ノ四以上帝國臣民タルコトヲ要ス

第二類 遠洋漁業獎勵法

二百六十七

第四條 主務大臣ハ前條ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獵船乗組ノ漁獵員ニ對シ漁獵業ノ種類、場所及期間ニ從ヒ率ヲ定メ漁獵員獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 漁獵長每一人

七十二圓

一 漁獵手每一人

三十六圓

一 漁獵夫每一人

十二圓

第五條 主務大臣ハ豫メ認可シタル方法及設計ニ依リ遠洋漁船検査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ若ハ新造セシメ又ハ日本船舶ニ新造ノ機關ヲ据附ケ若ハ据附ケシメタル船舶所有者ニ對シ其ノ噸數、馬力ニ從ヒ率ヲ定メ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

鐵、鋼製

四十圓

一 船體總噸數每一噸

木鐵交造又ハ木鋼交造

三十五圓

木製

三十圓

一 蒸汽機關實馬力每一馬力

十圓

一 石油發動機關純馬力每一馬力

二十圓

第六條 獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類、船舶ノ噸數ノ制限並漁獵員ノ資格及定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム漁獵業ノ種類ニ依リ其ノ漁獵ノ場所ヲ制限スルノ必要アルトキ亦同シ

遠洋漁船検査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獵業者又ハ漁獲物處理運搬業者毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ其ノ期間ニ對スル獎勵金ヲ下付セス但シ船舶ノ沈没、破壊若ハ行衛不明又ハ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ業務ニ從事スルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁獵員獎勵金ヲ受クヘキ漁獵員毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキ又ハ出漁中其ノ船舶ヲ去リタルトキハ其ノ

第二類 遠洋漁業獎勵法

期間ニ對スル獎勵金ヲ下付セズ但シ業務中死亡シ又ハ故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ及前項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ但シ既ニ受ケル漁船獎勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル漁獲又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所

有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業獎勵金ヲ受ケタル者ノ使用スル船舶又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシムルコトヲ得

第十一條 遠洋漁業ノ指導、監督及遠洋漁業練習生養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ノ金額ヨリ支出シ之ニ充ツルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ獎勵金ノ下付ヲ廢止スルコトヲ得

第十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯サルトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第二類 遠洋漁業獎勵法

第十五條 主務大臣ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因
テ得タル金額、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ
受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

前項ノ償還金ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

主務大臣ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ

減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十七條 當業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但

シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在

ラス

第十八條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニ

シテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルト

キハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル
命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ八箇年間之ヲ施行ス但シ本法施
行前ニ於テ獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ許可期間内ハ仍從
前ノ規程ヲ適用ス

第二十二條 總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ關シ本法ニ依リ獎勵金ヲ受ケ又ハ受ケ
ムトスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶検査法、船舶職員法、船舶
法及船員法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

● 遠洋漁業獎勵法施行細則

(明治三十八年三月三十一日)
(農商務省令第十一號)

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

遠洋漁業獎勵施行法細則左ノ通改正ス(農商務、逓信大臣署名)

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受ケ又ハ受ケムトスル總噸數二十噸未満ノ遠洋漁船ニ關シテハ船舶法第四條、第七條、第九條船舶檢查法第四條、第五條船員法第三條乃至第十二條、第二十六條乃至第三十五條、第七十九條並船舶法施行細則及船員法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條 遠洋漁船檢查ニ關シテハ船舶檢查法施行細則第十三條、第十七條、第十九條乃至第二十五條、第四十四條、第四十九條、第五十條、第五十六條及第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第三條 本則ノ規定ニ依リ船長ノ行フヘキ職務ハ船長ヲ乘組マシメサル總噸數二十噸未満ノ船舶ニ在リテハ漁獵長之ヲ行フヘシ

第四條 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所又ハ業務執行ノ爲設ケタル事務所ノ所在地ノ管轄地方長官ヲ經由シテ

ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル業務目論見書

二 船舶甲板裝置圖及艙內裝置圖

三 總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢查證書寫、總噸數二十噸未満ノ船舶ニ付テハ船鑑札寫

出願人カ法人ナルトキハ前項書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿、遠洋漁船檢查證書ヲ受有スル者ナルトキハ尙遠洋漁船檢查證書ノ寫ヲ願書ニ添付スヘシ

第一項ノ出願ハ使用セムトスル船舶ノ製造中ト雖書式第三號ニ依ル願書ヲ差出シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項第三號ノ書類ハ船舶檢查證書及船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受ケタル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ願書ニ第五條第二號及第四號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第五條ニ依リ漁船獎勵金下付ノ出願ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

第五條 漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添
付住所ノ管轄地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 第四條第一號ノ書類

二 書式第五號ニ依ル船舶件名書

三 船圖

四 製造、据付仕様書及經費豫算書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號船圖ハ船舶ヲ新造スル者ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面
圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽
罐圖又ハ發動機圖、船舶ニ新造ノ機關ヲ据付ケル者ニアリテハ機關室橫截面
圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、裝帆圖、汽機圖及汽罐圖又ハ發動機圖
ノ各種ニ分チ其ノ寸法ヲ附記シ汽機圖ニハ汽機縱橫平面各截面並冷汽器附屬
唧筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱橫截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

第六條 農商務大臣第四條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ其ノ船舶カ遠

洋漁船検査證書ヲ受有スルモノナルトキハ當該官吏ヲシテ業務設備検査ヲ行
ハシメ遠洋漁船検査證書ヲ受有セサルモノナルトキハ管海官廳ノ遠洋漁船檢
查ヲ受クヘキ旨ヲ出願人ニ通知シ其ノ検査終了後當該官吏ヲシテ業務設備檢
査ヲ行ハシムヘシ

前項ノ業務設備検査ニ合格シタルトキハ農商務大臣ハ地方長官ヲ經テ漁業獎
勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第七條 前條ニ依リ遠洋漁船検査ヲ受クヘキ旨ノ通知ヲ受ケタル者ハ書式第六
號ニ依ル申請書ヲ船舶所在地ノ管轄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 農商務大臣第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムル
トキハ地方長官ヲ經テ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條 前條ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ船舶ノ新造又ハ機關ノ据付ニ關シ管
海官廳又ハ主務大臣ノ特ニ指定シタル官吏ノ指揮ニ從フコトヲ要ス

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

船舶ノ新造又ハ機關ノ据付ヲ終リタルトキハ許可指令書ヲ受ケタル者ハ遠洋
漁船検査ヲ管海官廳ニ申請スヘシ

第十條 漁業奨励金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内、漁船奨励金ヲ
受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船奨励金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ハ船舶ノ航行
期間満了シタル場合ニ於テ遠洋漁船検査ヲ管海官廳ニ申請スヘシ但シ正當ノ
事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十一條 管海官廳ニ於テ第七條、第九條及第十條ノ申請書ヲ受理シタルトキ
ハ遠洋漁船検査規程ニ依リ検査ヲ行ヒ適當ト認メタルトキハ書式第七號ニ依
ル遠洋漁船検査證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

船舶ノ航行期間内ト雖業務主ヨリ遠洋漁船検査ノ申請アリタルトキハ管海官
廳ニ於テ相當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ニ依リ検査ヲ行フヘシ

第十二條 漁業奨励金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期ノ始ニ於テ期日及場

所ヲ定メ業務設備検査ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

農商務大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認ムルトキハ再検査ヲ受ケヘキ旨
ヲ申請人ニ命スルコトヲ得

第十三條 漁業奨励金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル
トキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ其
ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

- 一 業務ヲ廢止シタルトキ
- 二 法人若ハ組合力解散又ハ破産シタルトキ
- 三 船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ
- 四 船舶カ滅失、沈没シ若ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ解撤セラレタルト
キ

五 遠洋漁船検査證書ノ交付ヲ受ケ得サルトキ

六 前各號ノ外奨励金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

第二類 遠洋漁業奨励法施行細則

法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 遠洋漁船検査證書ヲ受有スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ證書ヲ管海官廳ニ返納スヘシ但シ船舶ノ滅失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ返納スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ届出ツヘシ

- 一 航行期間ノ滿了シタルトキ
- 二 業務設備検査ニ合格セサルトキ
- 三 漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年ヲ經過シタル船舶若ハ漁船獎勵金ヲ受ケサル船舶ニシテ漁業獎勵金下付許可期間ノ滿了シタルトキ又ハ漁業獎勵金ノ下付ヲ廢止セラレタルトキ
- 四 前條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ該當シタルトキ

前條第二項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十五條 遠洋漁船検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ業務主又ハ船長ハ遲滞ナク其ノ書換ヲ管海官廳ニ申請スヘシ

第十六條 遠洋漁船検査證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ業務主又ハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ再交付ヲ管海官廳ニ申請スヘシ

第十七條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク書式第八號ニ依ル届書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

第十九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務ニ從事スルトキハ發著ノ都度其ノ事由ヲ具シ帝國ニ在リテハ警察本分署、外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易事務官ニ届出テ其ノ證明ヲ受クヘシ

第二十一條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者每業務期間ニ於ケル業務ヲ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出テ且帝國ニ在リテハ最寄警察本分署、外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易事務官ニ書式第九號ニ依リ申請書ヲ差出シ其ノ證明ヲ受クヘシ

第二十二條 業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農商務大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊

ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第二十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ其ノ業務ニ從事シタル者ニシテ業務期間ヲ終リタルトキハ書式第十號ニ依リ請求書ニ業務日誌、書式第十一號ニ依ル業務明細書及第二十條及第二十一條ノ證明書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ遠洋漁船検査證書ヲ受ケタルトキハ書式第十二號ニ依リ請求書ニ其ノ寫ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 業務主力每業務期間ヲ終リタルトキハ其ノ船舶ニ乗組ミタル漁獵員ハ其ノ業務主ヲ代理人ト爲シ書式第十三號ニ依リ請求書ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項請求書ニハ書式第十四號ニ依リ漁獵員明細書ヲ添付スヘシ

第二十六條 遠洋漁業獎勵法第七條第一項但書及第二項但書ノ場合ニ於テハ請

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

求書ニ其ノ事由ヲ推定スヘキ證據書類ヲ添ヘ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ死亡シ又ハ行衛不明トナリタル漁獵員ニ對スル獎勵金ハ其ノ正當相續人タルヘキ者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ請求人ハ其ノ親族關係ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第二十七條 遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十八條 漁獵職員試驗ハ農商務大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ執行ス

農商務大臣ニ於テ臨時試驗ヲ執行スル必要アリト認ムルトキハ別ニ其ノ場所及期日ヲ定ム

第二十九條 漁獵職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日七日前迄ニ書式第十五號ニ依ル願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

漁獵職員免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二箇年間に前條ノ試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十條 漁獵職員試験ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

甲種漁獵長

一 乙種漁獵長免狀ヲ有シ一箇年以上其ノ職ヲ執リタル者又ハ各種船長、甲種一等運轉士甲種二等運轉士若ハ乙種一等運轉士ノ免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者

乙種漁獵長

一 丙種漁獵長免狀、海技免狀又ハ水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者

丙種漁獵長

一 漁獵手免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者、四箇年以上航洋

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

帆船ニ乗組ミ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者又ハ五箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シ内一箇年以上航洋帆船ニ乗組ミタル者

漁獵手

一漁獵夫ト爲リ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者又ハ四箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シタル者

第三十一條 農商務大臣ハ漁獵職員試験ニ合格シタル者ニ對シ相當ノ免狀ヲ交付スヘシ

第三十二條 農商務大臣ハ遠洋漁業練習生ノ修業證書又ハ水産講習所遠洋漁業科ノ修業證書ヲ有スル者ニ對シ試験ヲ用非スシテ相當ノ免狀ヲ交付スルコトヲ得

第三十三條 農商務大臣ハ漁獵職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ免狀ノ行使ヲ停止シ又ハ免狀ノ返納ヲ命スルコトヲ得

一 遠洋漁業獎勵法又ハ同法ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者

二 海員懲戒法ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタル者

詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スヘシ

第三十四條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期間ヲ終リタル日ヨリ二箇月以内ニ業務收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二箇月以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第三十五條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ毎年一回其ノ收支計算書及業務報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ其ノ業務主ニシテ前條ノ適用ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間内漁船獎勵金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノトキヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

農商務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十七條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第三十八條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長及漁獵長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滞ナク其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十九條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ
第四十條 第十條、第十三條乃至第十九條、第三十四條乃至第三十七條ノ規定

ニ違反シ若ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四十一條 本則ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 農商務大臣ハ本則施行後二箇年間左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ相當ノ漁獵職員免狀ヲ交付スルコトヲ得

- 一 本則施行以前ニ於テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ船長又ハ漁獵長ノ職務ヲ執リタル者
- 二 本則施行以前ニ於テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタル者

(書式略ス)

●遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコト

トヲ得ヘキ漁獵業ノ種類船舶ノ噸數ノ制限

第二類 遠洋漁業獎勵法施行細則

並漁獵員ノ資格及定員 (明治三十八年三月二十八日 勅令 第百十四號)

朕遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類、船舶ノ噸數ノ制限並漁獵員ノ資格及定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類左ノ如シ

- 一 鯨獵業
- 二 臘虎、臘豚獸獵業
- 三 旋網漁業
- 四 打瀨網漁業
- 五 流網漁業
- 六 延繩漁業
- 七 立繩漁業

八 鰹釣漁業

第二條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ船舶ノ噸數ノ制限左ノ如シ

- 一 鯨獵業
本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ汽船總噸數八十噸以上百五十噸以下
漁艇ヲ以テ漁業ヲ爲スモノノ帆船總噸數百噸以上四百噸以下
- 二 臘虎、臘豚獸獵業
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ汽船總噸數五十噸以上二百噸以下
帆船總噸數五十噸以上百五十噸以下
- 三 旋網漁業
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ汽船總噸數五十噸以上二百噸以下
帆船總噸數五十噸以上二百噸以下
- 四 打瀨網漁業
本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數二十噸以上百噸未満
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數三十噸以上百噸以下
- 五 流網漁業
本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數三十噸以上百噸以下
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數三十噸以上百噸以下
- 六 延繩漁業
本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數三十噸以上百噸未満
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノノ帆船總噸數三十噸以上百噸以下

第二類 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類船舶ノ噸數ノ制限並漁獵員ノ資格及定員 二百九十一

七 立繩漁業

本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノ
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノ

帆船總噸數十噸以上二百五十噸以下
帆船總噸數三十噸以上二百五十噸以下

八 鰹釣漁業

本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノ
漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノ

帆船總噸數十噸以上三十噸未満
汽船總噸數五十噸以上二百噸以下
帆船總噸數三十噸以上百八十噸以下
汽船總噸數八十噸以上三百五十噸以下
帆船總噸數十五噸以上百五十噸以下

九 漁獲物處理運搬業

第三條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵員ハ漁獵

長、漁獵手又ハ獵漁夫ニシテ年齢滿十六年以上ノ男子ニ限ル

第四條 漁獵長及漁獵手タルヘキ者ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ左ノ免狀ヲ

有スルコトヲ要ス

一 甲種漁獵長免狀

二 乙種漁獵長免狀

三 丙種漁獵長免狀

四 漁獵手免狀

乙種漁獵長免狀ヲ有スル者ハ近海航路ニ於テ漁獵業ニ使用スル遠洋漁船ニ限リ、丙種漁獵長免狀ヲ有スル者ハ總噸數二十噸未満ノ遠洋漁船ニ限リ其ノ漁獵長タルコトヲ得

第五條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵員ノ定員左ノ如シ

業務ノ種類	船種	定員	
		本船ヲ以テ漁獵ヲ爲スモノ	漁艇ヲ以テ漁獵ヲ爲ス者
漁獵業	汽船	漁獵長	漁艇每一隻
	帆船	漁獵手	漁艇每一隻
鯨獵業	汽船	漁獵長	漁艇每一隻
		漁獵手	漁艇每一隻
	帆船	漁獵長	漁艇每一隻
		漁獵手	漁艇每一隻
		漁獵夫	漁艇每一隻

第二類 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スル
コトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類船舶ノ噸數ノ
制限並漁獵員ノ資格及定員 二百九十三

臘虎、臘胸獸獵業	帆船	打瀬網漁業	帆汽船		流網漁業	帆船	延繩漁業	帆船	立繩漁業	帆汽船		總釣漁業
			帆船	汽船						帆船	汽船	
	1											
	1											
					8	8	8	8	8	15	11	25
	1				1	1	1	1	1	1	1	1
	1				1	1	1	1	20	1	1	1
	3				3	3	3	3	3	3	3	3
	3				3	3	3	3	3	3	3	3
	3				3	3	3	3	4	4	4	3

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十年勅令第七十六號ハ之ヲ廢止ス

● 獸獵

● 臘虎臘胸獸獵法

(明治二十八年三月二日)
 法律 第十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臘虎臘胸獸獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臘虎臘胸獸獵法

- 第一條 臘虎臘胸獸ヲ獵獲セムトスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受ケヘシ
- 第二條 臘虎臘胸獸保護ノ爲勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船、獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齢ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得
- 第三條 軍艦艦長、警察官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ臘虎臘胸獸獵船、獵具及獵獲物ノ検査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

- 第四條 禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ臘虎臘胸獸ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以
- 第二類 臘虎臘胸獸獵法 二百九十五

上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條 獵船、獵具、獵法ノ制限及牝牡、年齢ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船、獵具及獵獲物ノ検査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎臘肭獸ヲ獵獲シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條 第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其ノ代價ヲ追徴ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●臘虎臘肭獸獵免許規則

(明治二十八年十二月 農商務省令第十二號)

臘虎臘肭獸免許規則左ノ通相定ム

臘虎臘肭獸獵免許規則

第一條 臘虎若クハ臘肭獸ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫場管轄ノ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二條 前條獵業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但地先沿岸ニ於テ獵銃ヲ使用セス臘虎若クハ臘肭獸ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記載スルヲ要セス

一 獵業ノ種類

二 本籍及住所身分

三 獵船ノ數及其船名噸數

第二類 臘虎臘肭獸獵免許規則

四 獵船定繫場

五 獵期及獵場

六 獵具獵法

第三條 獵業ヲ免許シタルトキハ左ノ雛形ニ依リ各獵船ニ免許證ヲ下付ス

(免許證雛形略ス)

第四條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ従事スルトキハ出港地管轄警察本分署ニ届

出テ獵期ノ終了ニ際シ獵船定繫場若クハ寄港地管轄ノ警察本分署ニ獵業免許

證ヲ差出シ檢印ヲ受ケ可シ

前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケサルコトニ箇年以上ニ渉ルトキハ免許ノ效ヲ失

フモノトス

第五條 獵業免許ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ旗章ヲ製シ獵業ニ従事スルトキ

ハ常ニ船楫又ハ船部ノ見易キ所ニ掲ケヘシ

獵船ニ屬スル端艇ニハ本船船名ヲ便宜見易キ所ニ表記スヘシ

(旗章雛形略ス)

第六條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ従事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帯シ軍艦艦

長警察官吏税關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求

ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ従事シタルトキハ終了ノ後二箇月以内ニ於

テ其ノ獵獲シタル臘虎臘肭獸ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端

艇ノ數乗組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳 (東京府下ハ警視廳以下ニ

倣フ) ヲ經由シテ農商務省ニ報告スヘシ

第八條 獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ第二條第二第三

第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ免許證ノ下渡又

ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條 獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ

失ヒタルトキハ直ニ免許書ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

第二類 臘虎臘肭獸獵免許規則

●狩獵

●狩獵法

(明治三十四年四月十二日)
法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
狩獵法

第一章 獵具、獵法

第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、繩繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲ス
ルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル器若ハ陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲
スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具、獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官ハ農商
務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設ケルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又
ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一 御獵場

二 禁獵區

三 公道

四 公園

五 社寺境内

六 墓地

第五條 欄、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有
者、他人ノ共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩
獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲メ又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ理由

第二類 狩獵法

ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十箇年以内ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條 地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第八條 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ欄、柵又ハ圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受ケルコトヲ得ス

第九條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受ケルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二ト種ス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第十一條 免狀ヲ受ケル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一等 (所得稅百圓以上、地租五百圓以上者ハ若ハ營業稅百五十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族) 金二十圓
- 二等 (所得稅三十圓以上、地租三十圓以上者ハ若ハ營業稅二十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族) 金十圓
- 三等 一等、二等以外ノ者 金二圓

第十二條 免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

前項期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

第二類 狩獵法

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十六條 未成年者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 免許ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十八條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之ヲ許可

ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

第三章 鳥獸保護

第十九條 保護鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ保護期間前ニ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ期間ノ初日ヨリ二週間以内ニ於テ賣買スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依リ賣買スルコトヲ得

保護鳥獸ノ種類及保護期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十條 保護鳥獸ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ學術研究ノ爲之ヲ採取ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第四章 罰則

第二十一條 第八條第一項、第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀若ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケ又ハ詐テ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

第二類 狩獵法

三百五

第二十二條 第二條第一項、第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰前條ニ同

シ

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十三條 第五條、第十四條第三項、第十九條第一項、第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第五條ニ付テハ土地所有者、占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十四條 第十四條第一項、第十五條第一項、第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十五條 本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同狩獵地ハ本法施行後ト雖

其ノ免許期間仍從前ノ規定ヲ適用ス

第二十七條 本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第二十八條 本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行後仍其ノ罰則ヲ適用ス

第二十九條 明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十條 本法中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本法中市町村長ノ職務ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ該當スヘキ者之ヲ行フ

●狩獵法施行規則

(明治三十四年六月二十六日) 農商務省令第七號

狩獵法施行規則左ノ通改正シ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

狩獵法施行規則

第一條 狩獵法第一條ノ網トハ羅罾、投網、霞網其他ノ張網ヲ謂ヒ懸繩トハ流シ繩、張繩繩ヲ謂ヒ撥トハ高撥、千本撥ヲ謂フ

第二類 狩獵法施行規則

第二條 狩獵免狀ヲ受ケントスル者ハ願書ニ免狀ノ種類、等級及ヒ身分、職業、氏名、住所年齡ヲ記載シ且狩獵法第二十二條又ハ明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

前項ノ願書ニハ狩獵法第十一條ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ但一等免狀ヲ受ケントスル者ハ此限ニ在ラス（三十四年農商務省令第九號ヲ以テ但書追加）

第三條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スル場合ニ於テ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

收入印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第四條 狩獵免狀ヲ受ケタル者其氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ三週間内ニ其旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ身分ニ異動アリタルトキ亦同シ

新住所地方他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免狀ノ種類、

等級及ヒ身分、職業、氏名、住所、年齡ヲ記載シタル書面ヲ其地方長官ニ差出スヘシ

第五條 地方長官ハ其下付スヘキ免狀用紙ノ概數ヲ毎年七月十五日限り農商務大臣ニ申告スヘシ

第六條 地方長官ハ免狀原簿ヲ備ヘ置キ之ニ免狀ノ種類、等級、番號及ヒ獵者ノ身分、職業、氏名、住所、年齡ヲ登錄スヘシ

第七條 獵者其免狀ヲ喪失シタルトキハ直チニ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ地方長官ニ差出スヘシ此場合ニ於テハ地方長官ハ其旨ヲ公告スヘシ

第八條 地方長官ハ第一號様式ニ依リ免狀統計表ヲ調製シ毎年十二月十五日マテニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條 地方長官狩獵法第六條ノ規定ニ依リ禁獵區ヲ設ケタルトキハ其禁獵ノ期間、理由及ヒ時期ヲ記載シタル書面ニ圖面ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二類 狩獵法施行規則

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其理由ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ區域ヲ變更シタル場合ニ於テハ其變更ノ區分ヲ示ス圖面ヲ添附スヘシ

第十條 土地所有者禁獵區ノ設置ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其禁獵ノ期間、理由及ヒ時期ヲ記載シ圖面ヲ添附シテ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前條第二項ノ規定ハ土地所有者出願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前二條ノ場合ニ於テ禁獵區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ禁獵ノ區域、期間及ヒ時期ヲ公告スヘシ

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其旨ヲ公告スヘシ

第十二條 地方長官鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲メ禁獵區ヲ設ケタルトキハ毎年九月三十日マテニ其禁獵區ニ於ケル鳥獸蕃殖ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ其免許ヲ受ケントスル

期間ヲ記載シ圖面及ヒ共同狩獵ノ慣行ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

免許ノ繼續ヲ出願セントスル場合ニ於テハ前項ノ圖面及ヒ書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第十四條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セントスルトキハ願書ニ其變更ノ區分ヲ示ス圖面及變更ノ理由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十五條 共同狩獵地ト爲サントスル土地ノ全部又ハ一部カ官有地ナルトキ又ハ他人ノ所有地ナルトキハ願書ニ主務官廳ノ許可書又ハ所有者ノ承諾書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十六條 地方長官ハ第十三條又ハ第十四條ノ願書ニ狩獵ノ慣行ニ關スル意見ヲ附スヘシ

第十七條 免許期間内ニ共同獵地ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ其旨
第二類 狩獵法施行規則
三百十一

ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十八條 農商務大臣公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ共同狩獵地ノ免許ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第十九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年五月十五日マテニ地方長官ヲ經由シテ各狩獵期間中ニ捕獲シタル鳥獸ノ種類、數及ヒ狩獵ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲メ六十間ヲ超エサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ其周圍ニ木標ヲ建設スヘシ

土地所有者ノ出願ニ因リ禁獵區ヲ設ケタル場合ニ於テハ出願者ヲシテ木標設置ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

木標ニハ其四面ニ雛形ニ掲ケタル事項ノ外禁獵區ノ方位ヲ示シ且禁獵ノ時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載スヘシ

第二十一條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ前條

ノ規定ニ準シテ木標ヲ建設スヘシ

前項ノ規定ハ狩獵法第二十六條ノ獵區及共同狩獵地ニ之ヲ準用ス

第二十二條 地方長官狩獵法第七條ノ規定ニ依リ銃獵ヲ禁シタルトキハ其場所ニ制札ヲ建設スヘシ

第二十三條 地方長官カ狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ鳥獸ノ捕獲又ハ保護鳥類ノ卵若クハ雛ノ採取ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲又ハ採取スヘキ鳥獸又ハ卵雛ノ種類、數及ヒ捕獲採取ノ期間並ニ區域ヲ指定スヘシ

前項ノ期間ハ三箇月ヲ超エルコトヲ得ス

第二十四條 法人其他ノ團體ニ於テ狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ許可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ鳥獸又ハ卵雛ノ捕獲又ハ採取ニ從事スル者ヲ指定スヘシ

第二十五條 狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸又ハ卵雛ノ

第二類 狩獵法施行規則

捕獲又ハ採取ニ從事スルトキハ其許可證ヲ携帯スヘシ

第二十六條 狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ鳥獸又ハ卵雛ヲ捕獲又

ハ採取シタルトキハ指定期間内ニ其ノ種類及ヒ數ヲ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ニ基キ第二號又ハ第三號様式ニ依リ前半年間ノ鳥獸捕

獲表又ハ卵雛採取表ヲ調製シ毎年一月及ヒ七月之ヲ農商務大臣ニ差出スヘ

シ

第二十七條 左ニ掲ケル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁ス

一 鶴 シシツガラ 一 小雀 ヒガテ 一 日雀 ゴシツガラ 一 四十雀 ヒダキ 一 五十雀

一 柄長 キクイタダキ 一 菊 セツカ 一 戴 ムシクイ 一 蟲喰 ルリ 一 雪加 ヒダキ 一 雪加 ヒダキ 一 雪加 ヒダキ

一 三光鳥 フクロウ 一 鶺鴒 ミソササイ 一 鶺鴒 クワクコウ 一 杜鵑 ヨダカ 一 郭公 ヨダカ 一 蚊母鳥

一 鷓鴣 フクロウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ

一 鷓鴣 フクロウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ 一 鷓鴣 クワクコウ

第二十八條 左ニ掲ケル鳥類ハ三月一日ヨリ十月三十一日マテ捕獲スルコトヲ

禁ス

一 雉 ヤマドリ 一 鷓鴣 フクロウ

第二十九條 左ニ掲ケル鳥類ハ四月十六日ヨリ十月十四日マテ(北海道ニ於テ

ハ九月十四日マテ)捕獲スルコトヲ禁ス

一 鴨 ヒヨ 一 椋鳥 ムクドリ 一 雲雀 モズ 一 鶺鴒 ラサキ 一 雷鳥 ウヅラ

一 松鷄 エゾヤマドリ 一 鳩 ドバト 一 鶺鴒 シギ 一 鶺鴒 シギ 一 鶺鴒 シギ

一 松鷄 エゾヤマドリ 一 鳩 ドバト 一 鶺鴒 シギ 一 鶺鴒 シギ 一 鶺鴒 シギ

第三十條 農商務大臣ニ於テ前三條ニ掲ケサル鳥獸ノ保護ヲ必要ト認ムルトキ

ハ其鳥獸ノ名稱、保護期間及ヒ區域ヲ告示スヘシ

第三十一條 狩獵法第十九條第一項但書ノ規定ニ依リ保護鳥獸ヲ賣買セントス

ル者ハ保護期間ノ初日マテニ其賣買セントスル鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ所轄警察

官署ニ届出ヘシ

前項ノ鳥獸ヲ賣買シタルトキハ保護期間ノ初日ヨリ十五日内ニ其名稱及ヒ數

第二類 狩獵法施行規則

ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十二條 保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ保護期間ノ初日ヨリ二週間ヲ經過シタル翌日ニ於ケル現在ノ鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ十五日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ鳥獸ノ數ニ異動ヲ生シタルトキハ十五日内ニ其年月日及ヒ事由ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十三條 飼養ニ係ル保護鳥獸ヲ賣買シタルトキハ賣渡人ニ於テ十五日内ニ買受人ノ氏名、住所、賣渡ノ年月日及鳥獸ノ名稱、數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十四條 第二十條、第二十一條ノ木標若クハ第二十二條ノ制札ヲ毀棄汚損シタル者又ハ第二十五條、第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
(雛形及様式略ス)

●商業會議所法

(明治三十五年三月二十四日法律第三十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商業會議所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商業會議所法

第一條 商業會議所ハ法人トス

第二條 商業會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得

第三條 商業會議所ヲ設立セムトスルトキハ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ者三十

人以上發起人ト爲リ發起ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第四條 發起人前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り議員ノ選舉權ヲ有スヘ

キ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第五條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日ニ於テ成立ス

商業會議所成立ノ後役員ノ認可アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第二類 商業會議所法

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱、地區及所在地
- 二 議員ノ定數及其ノ選舉ニ關スル規定
- 三 役員ノ權限、選任及解任ニ關スル規定
- 四 會議ニ關スル規定
- 五 仲裁ニ關スル規定
- 六 庶務ニ關スル規定
- 七 會計ニ關スル規定
- 八 營造物ヲ設立シ又ハ管理スルトキハ其ノ管理ニ關スル規定

第七條 商業會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スル事
- 二 商工業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關シ意見ヲ行政廳ニ開申シ及商工業ノ利害ニ關スル意見ヲ表示スル事

三 商工業ニ關スル事項ニ關シ行政廳ノ諮問ニ應スル事

四 商工業ノ狀況及統計調査ヲ發表スル事

五 商工業者ノ委囑ニ因リ商工業ニ關スル事項ヲ調査シ又ハ商品ノ產地價格等ヲ證明スル事

六 官廳ノ命ニ因リ商工業ニ關スル鑑定人又ハ參考人ヲ推薦スル事

七 關係人ノ請求ニ因リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スル事

八 農商務大臣ノ認可ヲ受ケ商工業ニ關スル營造物ヲ設立シ又ハ管理シ其ノ他商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ爲ス事

第八條 農商務大臣又ハ地方長官ハ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ商業會議所ニ命スルコトヲ得

第九條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ主タル營業所又ハ事務所ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員ノ選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ半數以上、合資會社及株式合資會社

第二類 商業會議所法

三 在リテハ無限責任社員ノ半數以上、株式會社ニ在リテハ取締役ノ半數以上帝國臣民タルコトヲ要ス

二 自己ノ名ヲ以テ商法第二百六十三條、第二百六十四條第一號、第三號乃至第六號及第八號乃至第十二號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者

二 自己ノ名ヲ以テ製造及加工ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者

三 取引所稅ヲ納ムル取引所

四 礦業稅ヲ納ムル礦業權者
前項納稅ノ額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム
帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ營業所又ハ事務所ヲ有シ第一項各號ノ一ニ該當スルモノノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、理事又ハ登記シタル支配人ニシテ所得稅ヲ納ムル帝國臣民ハ其ノ主ト

シテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ノ所在地ニ於テ議員ノ選舉權ヲ有ス
前項納稅ノ額及法人ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ選舉權ヲ有セス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 剝奪公權者及停止公權者

三 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第十一條 一人ニシテ同一商業會議所ノ議員ノ選舉ニ關シニ以上ノ選舉權ヲ有スルコトヲ得ス

第十二條 法人及年齡三十歳以上ノ男子ニシテ二箇年以來議員ノ選舉權ニ關スル要件ヲ具備スル者ハ議員ノ被選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ

在リテハ取締役ノ全員帝國臣民タルコトヲ要ス

第十三條 第十條各號ノ一ニ該當スル者並禁治産者及準禁治産者ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ノ定數ハ五十人以下トス

第十五條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

地方長官ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ命スルコトヲ得

特別議員ハ決議ニ加ハルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

特別議員ハ年齢三十歳以上ノ帝國臣民タル男子ニシテ商工業ニ關スル學術、技藝又ハ經驗アル者タルコトヲ要ス

第十六條 議員ノ選舉ニ關シテハ複選舉、階級選舉其ノ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

議員選舉人ノ選舉ニ關シテハ議員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 議員ノ選舉事務ハ地方長官ノ命シタル選舉委員之ヲ行フ其ノ費用ハ商業會議所ノ負擔トス

地方長官ハ選舉事務ヲ監督ス

第十八條 議員ノ選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ但シ法人女子及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 議員及議員選舉人選舉ノ方法、手續及取締ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 議員當選者ハ地方長官、議員ハ會頭ニ於テ正當ノ事由アリト認めタル場合ヲ除クノ外商業會議所ノ決議ヲ經ルニ非サレハ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十一條 議員タル法人ハ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

代表者ハ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長又ハ理事ニシテ年齢三十歳以

第二類 商業會議所法

上ノ男子タルコトヲ要ス

第十三條ニ該當スル者ハ代表者タルコトヲ得ス

第二十二條 一人ニシテ同一商業會議所ニ於テ二以上ノ法人ノ代表者ト爲リ又ハ議員ト代表者トヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十三條 議員及特別議員ハ無給トス

第二十四條 議員ノ任期ハ四箇年トシ二箇年毎ニ其ノ半数ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多数ノ一半ヲ改選ス

初回ノ改選期及減員ノ場合ニ於テ解任者ヲ定ムル方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定

第三十五條 補闕議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

増員議員ノ任期ハ現任者ノ任期ヲ超ユルコトヲ得ス

議員増減ノ爲必要ナル任期ノ異動ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 特別議員ハ議員ノ半数改選期毎ニ解任ス

第二十七條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十八條 商業會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人

副會頭

會頭ハ商業會議所ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任シ會議ノ議長ト爲リ商業會議所ヲ

代表ス

副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ會頭事故アルトキハ之ヲ代理ス

商業會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ會頭副會頭ノ外必要ナル役員及事務員

ヲ置クコトヲ得

役員ハ議員中ヨリ之ヲ互選シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

役員ニシテ議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ解任ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ後任

者ノ認可アル迄其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第二十九條 商業會議所ハ商工業ノ狀況及統計ノ調査ノ爲必要ナル材料ノ提出

第二類 商業會議所法

三百二十五

ヲ商工業者ニ請求スルコトヲ得

第三十條 商業會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔ス
選舉權ヲ停止セラレタル者ハ停止中ト雖經費ヲ負擔ス

第三十一條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料若ハ手数料ヲ徵收シ又
ハ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

前項ノ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 商業會議所ハ其ノ決議ヲ以テ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタ
ル議員ニ二百圓以下ノ過怠金ヲ課シ又ハ之ヲ除名スルコトヲ得

第三十三條 經費又ハ過怠金ヲ滯納シ督促ヲ受クルモ尙之ヲ完納セサルトキハ
國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有
シ其ノ追徵還付時效ニ關シテハ國稅ノ例ニ依ル

滯納處分ハ滯納者住所地ノ市參事會、町村長之ヲ行フ

第三十四條 商業會議所ハ滯納又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ決議ヲ

以テ四箇年以内選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 左ノ決議ハ議員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アル

ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 定款變更ノ決議

二 第三十二條、第三十四條及第四十二條第一項ノ決議

前項ノ決議及經費ノ豫算、賦課徵收方法ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケル
ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十六條 商業會議所ハ經費ノ決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

商業會議所ハ毎年少クトモ一回其ノ事業成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十七條 商業會議所解散ノ決議ハ議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非
サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二類 商業會議所法

第三十八條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十九條 商業會議所解散シタルトキハ其ノ決議ヲ以テ清算人ヲ選任スヘシ
清算人缺ケタルトキ亦同シ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス

第四十一條 清算人ハ商業會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十二條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ商業會議所ノ決議ヲ經ヘシ

商業會議所前項ノ決議ヲ爲サズ又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

第四十三條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十條及第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法、清算及財産處分方法ノ變更ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 議員ノ選舉、商業會議所ノ決議、行爲又ハ役員、清算人ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ選舉若ハ當選ノ取消、役員、清算人、議員若ハ特別議員ノ停職若ハ解任、商業會議所ノ決議、行爲若ハ役員、清算人ノ行爲ノ停止若ハ取消又ハ商業會議所ノ解散ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣ハ前項ニ依リ解任セラレタル議員又ハ役員及不正ノ行爲ニ因リ當選ヲ取消サレタル者ニ對シ四箇年以内選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第二類 商業會議所法

第四十六條 選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中議員、特別議員又ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第四十七條 農商務大臣ハ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四十八條 本法中市町村、市參事會、町村長ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

附則

第四十九條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

商業會議所條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十二條ノ認可ヲ受クル迄其ノ效力ヲ有ス

第五十條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ本法施行後繼續セムトスルモノハ本法ノ規定ニ從ヒ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關ス

ル必要ナル規定ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ明治三十六年三月三十一日迄ニ議員ノ選舉ヲ爲スヘシ

前項ノ選舉及之ニ依リ選舉セラレタル議員ニ關シテハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ會員及特別會員ニシテ本法施行ノ際其ノ職ニ在ル者ノ任期ハ前條第一項ノ選舉終了ノ日迄トス

第五十二條 第五十條第一項ノ選舉ニ當選シタル議員ハ選舉終了ノ日ヨリ三十日以内ニ本法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ議定シ及役員ヲ選任シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ハ第二條ノ規定ニ拘ラス從前ノ地區ニ依ルコトヲ得

第五十三條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ役員ノ任期ハ前條第二類 商業會議所法 三百三十一

第一項ニ依リ選任シタル役員認可ノ日迄トス

第五十四條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ第五十二條第

一項ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リテ設立シタルモノト看做ス

商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所第五十條第一項又ハ第五十二條

第一項ニ定メタル手續ヲ爲ササルトキハ解散シタルモノト看做ス此ノ場合ニ

於テハ第三十八條乃至第四十五條ノ規定ヲ適用ス

●商業會議所法施行規則

(明治三十五年六月二十七日
農商務省令第十四號)

商業會議所法施行規則左ノ通相定ム

商業會議所法施行規則

第一條 商業會議所發起ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書又ハ其ノ附屬書

類ニ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 商業會議所設立ノ理由

二 地區

三 議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者及被選舉權ヲ有スヘキ者ノ數

四 發起人カ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ資格

五 創立費豫算

六 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスルトキハ其ノ特別

ノ事情

前項ノ外發起人ハ農商務大臣ノ命ニ依リ商工業ノ狀況其ノ他必要ナル事項ヲ

記載シタル書類ヲ差出スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町

村ニ少クトモ一人ノ發起人アルコトヲ要ス

第二條 發起人發起ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ設立ノ認可ヲ申請セ

サルトキハ發起ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

發起人ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣

第二類 商業會議所法施行規則

ハ發起ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第三條 發起人設立ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ定款及一年度經費ノ豫定額並議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上カ之ニ同意シタルコトヲ證スル書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ付キ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルコトヲ要ス

第四條 農商務大臣商業會議所設立ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ名稱、地區及所在地ヲ告示スヘシ

第五條 發起人ハ議員選舉終了後遲滞ナク商業會議所ノ會議ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費決算ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ會議ニ於テハ經費ノ豫算及賦課徵收方法ヲ議決シ並役員ノ選舉ヲ行フヘシ

發起人ハ第一項ノ承認ヲ經タル創立費決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 役員ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク一切ノ書類、物件及事務ヲ役員ニ引繼クヘシ

第七條 商業會議所ハ議員ノ當選者アル毎ニ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月、納稅種目及納稅額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、設立ノ年月日、資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額、納稅種目及納稅額ヲ報告スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ議員ノ被選舉權ヲ有スル者當選シタルトキハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ目的、納稅種目、納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ法人ニ於ケル地位ヲ報告スヘシ
階級、選舉區又ハ業種ニ分チテ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ前二項ノ外當選者ノ屬スル階級、選舉區又ハ業種ヲ報告スヘシ

特別議員ノ選定又ハ任命アリタルトキハ商業會議所ハ履歷書ヲ添付シ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二類 商業會議所法施行規則

第八條 議員又ハ特別議員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 法人議員ニ當選シタルトキハ當選確定ノ日ヨリ二十日以内ニ代表者ノ氏名、其ノ法人ニ於ケル地位、身分、住所及生年月ヲ商業會議所ニ届出ツヘシ代表者變更ノ場合亦同シ

商業會議所ハ前項届出ノ事項ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 第七條及第九條ニ依リ報告シタル事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 商業會議所役員ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添附シ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

役員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商業會議所ハ毎月一回其ノ前月中ニ執行シタル事務ノ要領ヲ農商務

大臣ニ報告スヘシ

第十三條 商業會議所ニ於テ商業會議所法第七條第八號ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ理由ヲ記載シ事業ノ計畫及費用ニ關スル詳細ノ調書ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十四條 商業會議所ノ經費ハ資本金額ヲ標準トシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

納税額ヲ標準トシテ經費ヲ賦課スル場合ニ於テハ營業稅及鑛業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二十五、取引所稅ニ在リテハ其ノ百分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

入頭割ハ等級ヲ定メテ之ヲ賦課スルコトヲ得

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ對シテハ入頭割ニ依ルノ外經費ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ同時ニ商業會議所法第九條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二類 商業會議所法施行規則

第十五條 商業會議所ハ其ノ會計年度ニ箇月前ニ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ但シ創立ノ場合ニ於テハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

經費豫算及賦課徵收方法ノ變更ノ認可ハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ申請スヘシ

第十六條 經費ノ決算ハ財産目錄ヲ添附シ會計年度經過後四箇月以内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十七條 商業會議所解散シタルトキハ農商務大臣之ヲ告示スヘシ

第十八條 商業會議所清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添へ遲滯ナク認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十九條 地方長官前條ノ認可ヲ與ヘ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六箇月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ之

ヲ商業會議所ノ決議ニ附スヘシ

前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ商業會議所ノ決議ヲ經タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

商業會議所第一項ノ期間内ニ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ其ノ事由ヲ具シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ期間經過後七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十一條 清算終了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告書ニハ商業會議所ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十二條 商業會議所法第三十五條第一項又ハ第三十七條ノ決議ニ關スル認可申請書ニハ法定ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第二十三條 商業會議所法又ハ本令ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方
第二類 商業會議所法施行規則
三百三十九

長官ヲ經由スヘシ

第二十四條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商業會議所議員選舉規則 (明治三十五年六月二十七日) (農商務省令第十五號)

商業會議所議員選舉規則左ノ通相定ム

商業會議所議員選舉規則

第一條 商業會議所ニ於テ階級選舉ヲ行ハムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ三級又ハ二級ニ分ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ別ニ之ヲ一階級ト爲スヘシ若其數一階級ヲ爲スニ足ラサルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ前項ニ依リテ定メタル各級ニ編入スルコトヲ得

第二條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最多キ者多キ者ヲ合セテ經費總額ノ三分一ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ一級以外ノ選舉權

者中經費ノ納額多キ者ヲ合セテ經費總額ノ殘餘ノ一半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ三級トス

選舉權者ヲ分チテ二級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最多キ者ヲ合セテ經費總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ二級トス

前條第二項ニ依リ一階級ヲ作りタル場合ニ於テハ之ニ屬スル選舉權者ノ經費納額ヲ經費總額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ前二項ノ經費總額ト看做ス

各級ノ間經費ノ納額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ納額同シキ者二名以上アルトキハ選舉權ニ關スル要件ヲ具備シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル其ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ニ依リ年齡ニ依リ難キトキハ商業會議所ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 經費納額ニ依リ階級ヲ分ツコト能ハサル場合ニ於テハ商業會議所法第九條ノ納稅額ニ依リ前條ノ規定ニ準シテ選舉權者ヲ分ツヘシ但シ取引所稅ニ關シテハ其ノ二十五分一ヲ以テ納稅額ト看做ス

第二類 商業會議所議員選舉規則

一人ニシテ商業會議所法第九條第一項各號ノ稅ヲ納ムル者ハ其ノ納稅額ヲ通算スヘシ

第四條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員三分一ヲ選舉シ選舉權者ヲ分チテ二級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員二分一ヲ選舉ス

第一條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ階級ヨリ選舉スヘキ議員ノ數ヲ定メ殘餘ノ議員ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用ス

第五條 階級選舉法ニ依ル場合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ改選期ニ於テ各級ヨリ議員ノ各半數ヲ改選スヘシ

第六條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉區又ハ投票區ヲ設クルコトヲ得

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ハ各區ニ於ケル選舉權者ノ數ニ應シ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條 複選舉法ニ依ル場合ニ於ケル議員選舉人ノ數ハ定款ノ定ムル所ニ依ル但シ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ業種ニ分チ各業種ヨリ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選舉セシムルコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 複選舉法ニ依ル場合ニ於テハ議員選舉人ノ選舉ニ限リ階級若ハ業種ニ分チ又ハ選舉區ヲ設ケ選舉ヲ行フコトヲ得

トヲ得

第十條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日及毎年一回定款ニ定メタル期日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ地方長官ニ差出スヘシ選舉權者名簿ハ階級選舉法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ階級、選舉區又ハ投票區ヲ設ケテ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權

第二類 商業會議所議員選舉規則

三百四十三

者ノ屬スヘキ選舉區又ハ投票區、業種ニ分チ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ業種ニ區別シテ調製スヘシ

選舉權者名簿ニハ選舉權者ノ氏名、職業、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ關シテハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ名稱、目的、納稅種目、納稅額及其ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ職務、主トシテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ヲ記載スヘシ

第十一條 商業會議所選舉權者名簿ヲ調製シタルトキハ十四日以上ニ於テ公示ノ期間ヲ定メ豫メ其ノ期間及場所ヲ公告シ其ノ事務所又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ之ヲ縱覽ニ供スヘシ

第十二條 選舉權者選舉權者名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ

縱覽期間内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ之ヲ商業會議所會頭ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 會頭前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉權者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ直ニ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ選舉權者名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十四條 前條第一項ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ其事由ヲ具シ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ選舉權者名簿ノ修正ヲ要スルトキハ商業會議所ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第十五條 選舉權者名簿ハ第十一條ノ縱覽期間滿了後二十日ヲ經テ確定ス

第二類 商業會議所議員選舉規則

前項ノ名簿ハ次年ノ名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ

第十六條 商業會議所ニ於テ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十七條 選舉委員ハ三名又ハ五名トシ内一名ヲ委員長トス

委員長ハ郡長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ郡長又ハ市長事故アルトキハ其ノ代理者其ノ職務ヲ行フ

前項ノ場合ヲ除クノ外選舉委員事故アルトキハ地方長官ノ任命シタル豫備員中ヨリ委員長之ヲ補充ス

第十八條 選舉區又ハ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉委員長ハ各選舉區又ハ投票區毎ニ投票管理者及其ノ代理者各一名並立會人二名ヲ選任スヘシ

立會人事故アルトキハ投票管理者ハ臨時ニ立會人ヲ選任スヘシ

第十九條 地方長官ハ選舉ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ選舉スヘキ議員ノ員數ト共ニ選舉ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ十五日前ニ之ヲ告示シ且之ヲ農商務大

臣ニ報告スヘシ

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條 選舉權者名簿ニ登録セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉權者名簿ニ登録セラレヘキ裁決書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉權者名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票スルコトヲ得ス

第二十二條 法人、女子及無能力者ハ左ノ代人ヲ以テ選舉ヲ行フヘシ但シ一人

ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

一 法人ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長、理事

二 無能力者ニ非サル女子ニ在リテハ自ラ選任シタル者

三 無能力者ニ在リテハ親權者、後見人、保佐人又ハ夫

代人ハ帝國臣民タル成年ノ男子ニシテ商業會議所法第十三條ニ該當セサル者ナルコトヲ要ス

第二類 商業會議所議員選舉規則

三百四十七

代人選舉ヲ行ハムトスルトキハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ携帯スヘシ

第二十三條 選舉委員長又ハ投票管理者ハ選舉場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 投票ヲ爲スコトヲ得ル者、選舉委員其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉ノ事務ニ從事スル者及警察官吏ノ外選舉場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條 選舉委員ハ其ノ決議ニ依リ、投票管理者ハ立會人ノ意見ヲ聞キ投票ヲ爲スコトヲ得サル者ノ投票ヲ拒ムコトヲ得

第二十六條 選舉場ニ於テ演説、討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議、勧誘ヲ爲シ其ノ他選舉場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉委員長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉場閉鎖ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 投票ノ效力ハ選舉委員之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉委員長之ヲ決ス

第二十八條 有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ定款ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ヲ選舉權者又ハ議員選舉人ノ數ニ乘シ選舉スヘキ議員ノ數ヲ以テ之ヲ除シテ得タル數ノ五分一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ニシテ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ、被選舉權者有セサル爲メ當選無効ト爲リタルトキ又ハ農商務大臣ノ命ニ依リ當選ヲ取消サレタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

本條ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ其ノ順位ヲ定ム

第二十九條 選舉終了シタルトキハ選舉委員長ハ直ニ其ノ結果ヲ地方長官ニ報

第二類 商業會議所議員選舉規則

三百四十九

告スヘシ

第三十條 選舉委員長ハ選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉委員ノ連署シタル選舉記録二本ヲ作り一本ヲ地方長官ニ差出シ一本ハ投票ヲ添ヘ之ヲ商業會議所ニ交付スヘシ

前項ノ選舉記録及投票ハ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ投票ハ有效無效ニ區別シテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 當選者定マリタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ當選者ニ告知スヘシ

第三十二條 當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

一人ニシテ二以上ノ階級、選舉區又ハ業種ノ選舉ニ當選シタルトキハ最後ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申出ツヘシ其ノ申出ナキトキハ地方長官其ノ當選ノ階級、選舉區又ハ業種ヲ定ム

第三十三條 當選者ナキトキハ地方長官ハ更ニ選舉ヲ行ハシメ當選者選舉スヘキ議員ノ數ニ達セサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ

第三十四條 第三十二條ニ依リ當選確定シタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ當選者ニ告知スヘシ

當選者ノ氏名ハ地方長官之ヲ告示シ且之ヲ商業會議所ニ通知スヘシ

第三十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉權者名簿ニ登録セラレタル者

二 選舉委員、投票管理者又ハ立會人ニシテ正當ノ事由ナク本令ニ定メタル

義務ヲ缺キタル者

第三十六條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職

第二類 商業會議所議員選舉規則

三百五十一

務ヲ選舉權者、議員選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者

第三十七條 左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

一 詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者

二 選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三 選舉委員、投票管理者、立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニシテ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ニ付眞僞ニ拘ラス之ヲ表示シタル者

四 選舉ニ關シ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

五 選舉委員、投票管理者、立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ選舉場ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者

第三十八條 當選者其ノ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ農商務大臣ハ其ノ當選ヲ取消スヘシ

第三十九條 本令中議員選舉ニ關スル規定ハ議員選舉人ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第四十條 商業會議所法第五十條第一項ニ依リ議員ノ選舉ヲ行ハムトスルトキハ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關スル規定ノ認可ヲ受ケタル日ノ現在

第二類 商業會議所議員選舉規則

ニ依リ選舉權者名簿ヲ調製スヘシ

第四十一條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商業會議所議員選舉權ニ關スル納稅額及資本額

又ハ財産ヲ目的トスル出資額ノ件

(明治三十五年六月二十七日
農商務省令第十六號)

商業會議所議員選舉權ニ關スル納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ノ件左ノ通相定ム

第一條 商業會議所法第九條第二項ニ依リ納稅額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定

營業稅、鑛業稅

第一	東京	納稅額	四十圓以上
第二	大阪 橫濱	納稅額	三十圓以上
第三	京都 神戸 名古屋	納稅額	二十圓以上
第四	其ノ他	納稅額	十圓以上

取引所稅

	商業會議所所在地名	納稅額
第一	東京 大阪 橫濱	一萬圓以上
第二	京都 神戸 名古屋	三千圓以上
第三	其ノ他	千圓以上

第二類 商業會議所議員選舉權ニ關スル納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ノ件 三百五十五

第二條 商業會議所法第九條第四項ニ依リ納稅額及法人ノ資本額又ハ財產ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム

商業會議所所在地名	資本額又ハ出資額	所得稅
第一 東京	五十萬圓以上	三十圓以上
第二 大阪	四十萬圓以上	二十圓以上
第三 橫濱	三十萬圓以上	二十圓以上
第四 京都 神戸 名古屋	二十萬圓以上	十五圓以上
第五 其ノ他	十萬圓以上	十圓以上

第三條 地方ノ狀況ニ依リ前二條ノ制限ニ依リ難キトキハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ特ニ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

商業會議所法第五十條ノ場合ニ於テハ前項ノ制限ハ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關スル必要ナル規定中ニ於テ之ヲ定ムヘシ(三十五年農商務省令第二十三號ヲ以テ本條追加)

第四條 商業會議所設立ノ際前條第一項ノ特例ヲ設ケムトスルトキハ商業會議所法施行規則第一條ノ手續ヲ爲ス前豫メ其ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ(同上)

第五條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 取引所

● 取引所法

(明治二十六年三月三日 法律第五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章 取引所ノ設立

第二類 取引所法

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織
第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

トヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得
取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受ケルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ
第三章 取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齡二十五歳以上ノ者ハ政所ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物
第二類 取引所法
三百五十九

件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ仲買人トナルコトヲ得ス(三十二年法律第五十八號ヲ以テ本條中株主ノ二字ヲ削リ三十二年七月十七日ヨリ施行ス)

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者、復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ始害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ

免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人

ノ業營ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ

任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

第二類 取引所法

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス
但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引所ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責任ヲ任スヘシ

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散

二 取引所ノ停止

第二類 取引所法

三 取引所一部ノ停止若ハ禁止

四 役員ノ解職

五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 罰則

第三十一條 第十二條第二項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム(二十六年法律第六號ヲ以テ取引所稅法ヲ定ム)

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法

第二類 取引所法

三 依り更ニ免許ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

●取引所法施行規則

(明治三十二年七月二十六日)
(農商務省令第十八號)

明治二十六年(七月)農商務省令第十三號ヲ左ノ通改正ス

取引所法施行規則

- 第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シテタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 發起人各自出資額
- 二 資本金使用ノ概算
- 三 設立ヲ要スル事由
- 四 賣買取引スヘキ物件ノ其地區内ニ於ケル集散ノ沿革及現況

五 其地區内ニ於テ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
- 二 發起人各自引受クヘキ株式ノ數
- 三 其地區内ニ於テ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ

第四條 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ一箇年以上其種類ノ商業ニ従事シタル商人三十人以上タルヘシ(三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ改正)

第二類 取引所法施行規則

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 取引所ノ地區
- 二 賣買取引スベキ物件
- 三 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 四 會議ニ關スル事項
- 五 手数料及仲買人ノ口錢ニ關スル事項
- 六 仲買人ノ業務組合及規約ニ關スル事項
- 七 仲買人ノ身元保證金及使用人ニ關スル事項
- 八 仲買人ノ入退ニ關スル事項
- 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
- 十 賣買ノ受渡及證據金ニ關スル事項
- 十一 倉庫ニ關スル事項
- 十二 公定相場ニ關スル事項

十三 取引所ノ帳簿ノ記録及仲買人ノ帳簿ニ關スル事項

十四 取引所ノ出納及決算ニ關スル事項

十五 金錢及有價證券ノ保管ニ關スル事項

十六 仲裁ニ關スル事項

十七 違約處分ニ關スル事項

十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項

第六條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

一 取引所ノ名稱及所在地

二 會員ノ出資及身元保證金ニ關スル事項

三 會員ノ入退ニ關スル事項

第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人發起ノ認可ヲ得タルトキハ少ナクモ十四日間左ノ事項ヲ公告シテ會員ヲ募集スベシ

第二類 取引所法施行規則

- 一 發起認可ノ年月日
- 二 取引所ノ組織ノ名稱及所在地
- 三 取引所ノ地區
- 四 賣買取引スルキ物件
- 五 資本金及發起人各自ノ出資額
- 六 各申込人ニ定款ヲ展閱セシムルキ事
- 七 發起人ノ氏名
- 八 七條ノ二 會員組織ヲ取引所ハ賣買取引スルキ物件ノ種類毎ニ五十人以上ノ會員アルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス（三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ追加）
- 第九條 發起人會員ノ募集ヲ終ルタルトキハ創立總會ヲ開クヘシ此總會ニ於テハ總會員ノ半數以上ノ承諾ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選舉ス
- 役員ハ設立免許申請書ニ定款、會員申込簿及申込人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官

ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條 株式會社組織ノ取引所ノ發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ總役員ハ商法第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添

テ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 定款

一 發起人各自ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面

二 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本

三 役員ノ選舉ニ關スル書類

第十條 發起ノ認可ヲ得タル後一年以内ニ設立免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ

第十一條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ總役員ハ創立總會終結ノ後

設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出

スヘシ

第二類 取引所法施行規則

二一定款

二各株主ノ株式申込證ノ謄本及株主名簿

第三二商法第三十四條ノ規定ニ從ヒテ役員又ハ検査役力爲シタル調査報告書

及其附屬書類

第四創立總會ノ決議録

第十二條 役員認可申請書ニハ其役員ノ履歷書ヲ添ヘ設立免許申請書ト共ニ之

ヲ差出スヘシ

第十三條 發起認可申請書及設立免許申請書ニハ地方長官其意見書ヲ添附スヘ

シ

第十四條 開業ノ日ヲ定メタルトキハ役員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

(三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ第二項削除)

第十五條 取引所設立ノ免許ヲ得タル後二年以内ニ開業セザルトキハ免許ハ其

效力ヲ失フ

第十五條ノ二 取引所ニシテ繼續ノ出願ヲ爲サムトスルモノハ願書ニ定款ヲ添

附シ免許年限満了前一箇年以内ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ免許年限

満了ノ日ヨリ三箇月前ニ其手續ヲ爲サルモノハ出願ヲ受理セス(三十五年

農商務省令第十三號ヲ以テ追加)

第十六條 仲買人ノ免許ヲ得シテ欲スル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ取引所ヲ經

由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

取引所ハ前項ノ願書ニ意見書ヲ添附スヘシ

第十七條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付ス

ヘシ

取引所ハ前項ノ免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ免許料

金額ニ相當スル収入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之

ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二類 取引所法施行規則

第十八條 仲買人前條第二項通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ請書又ハ身元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其效力ヲ失フ

第十九條 仲買人廢業シタル取キハ届書ニ免許狀ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シテ免許狀ノ再下付ヲ申請スヘシ

第二十條之三 取引所ハ會員及仲買人ノ帳簿ノ種類、記載事項及様式ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ(三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ追加)

第二十條之四 取引所ニ於テ會員及仲買人身元保證金ノ代用有價證券ノ種類及價格ヲ指定シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ(同上)

第二十條之五 取引所ハ其所有及諸預リノ金錢及有價證券ノ保管方法ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ(同上)

第二十條之五 取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ(同上)

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條之六 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用井ントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ終了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ(同上)

第二十條之七 取引所ハ其市場ニ於テ賣買取引スル物件ノ公定相場ヲ公示スヘシ(同上)

公定相場ハ市場ニ於ケル取引價格ニシテ適當ト認メタルモノニ依リ取引所ノ理事長理事之ヲ定ム其決定ヲ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十條之八 有價證券ヲ延取引ニ限リ賣買者間ニ合意ヲ依リ債權債務ノ移轉ヲ爲シタル場合ニ於テ取引所ハ其賣買差金ノ立換又ハ預リヲ爲スコトヲ得

(三十二年農商務省令第三號ヲ以テ追加)

第二類 取引所法施行規則

第二十一條 取引所又ハ其役員訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴訟ノ要旨及

其年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ訴訟結了シタルトキ亦同シ

第二十二條 株式會社組織ノ取引所商法ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ

登記シタル事項及其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 取引所ハ左ノ報告書類ヲ調製シ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 毎日公定相場表

二 毎月賣買高表

三 毎月商品ノ集散及商況ニ關スル報告書

以上翌月十五日限リ發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限リ發送

五 每半期財産目錄

六 每半期貸借對照表

七 每半期損益計算表

八 每半期事業報告書

九 每半期末日現在會員、株主及仲買人並其使用人ノ氏名表

以上決算期後二十日限リ發送

第二十四條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ別段ノ規定アルモノノ

外地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ニ付キ意見アルトキハ之ニ其意見書ヲ添附スヘシ

第二十五條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ取引所ヲ經由スヘシ

附則

第二十六條 本令施行前ニ發起ノ認可アリタルモノニ付テハ第十條ノ期間ハ本

令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (明治三十五年農商務省令第十三號)

第一條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二類 取引所法施行規則

第二條 第二十條ノ二ノ届出ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ
 第三條 第二十條ノ四ノ認可ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ申請スヘシ
 第四條 第二十條ノ三乃至四ニ規定スル事項ニ關シ本令施行前ニ届出ヲ爲シ又
 ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノト見
 做ス

●取引所所定ノ米ノ格付並株式會社組織ノ取引所

定款中續用認可ノ件 (明治三十五年六月五日 農商務省令第十一號)

第一條 取引所ニ於テ定メタル米ノ格付ニシテ本令發布前農商務大臣ニ届出ア
 リタルモノハ更ニ格付ヲ定ムルマデハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙
 之ヲ續用スルコトヲ認可ス

第二條 株式會社組織ノ取引所ニシテ本令發布前定款ノ定ムル所ニ依リ明治二
 十六年勅令第七十四號第十三條第一項第四號ノ方法ヲ用ユルモノハ其定款中

之ニ關スル規定ヲ變更シタルマデハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙之ヲ
 續用スルコトヲ認可ス

●米、有價證券取引市場設立ニ關スル件

(明治二十九年三月二十一日 農商務省令第一號)

米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ爾今地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受
 クルニシテサレバ設立スルコトヲ得ス犯ス者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若
 クハ十一日以上二十五日以内ノ重禁錮ニ處ス

●取引所設立發起認可申請ニ關スル件

(明治二十七年二月二日 農商務省訓令第七號)

取引所設立發起ノ認可ヲ申請スルモノアルトキハ左ノ各項ニ對スル意見ヲ添付
 北海道廳 府縣
 第二類
 取引所所定ノ米ノ格付並株式會社組織ノ 三百七十九
 取引所定款中續用認可ノ件 米、有價證券
 取引市場設立ニ關スル件 取引所設立發
 起認可申請ニ關スル件

シテ其申請書ヲ進達スヘシ

- 一 該地ニ於ケル其物件ノ集散ノ數量及ヒ集散ノ狀況果テ取引所ヲ設立シ之カ價格ヲ公定スルノ必要アルヤ否
- 二 該地ニ近接セル取引所ノ作用ニ依リ其物件ノ需要供給ノ關係ヲ圓滑ナラシムルニ足ラサルヤ否
- 三 該地ニ取引所ヲ設立スルモ將來能ク之ヲ保續シ得ヘキヤ否

● **取引所資本金、營業保證金、株式、手數料、積立金
及賣買取引ノ方法ニ關スル規程、仲買人免許料**

(明治二十六年七月二十一日)
勅令第七十四號

朕取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手數料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲買人免許料金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス(三十五年勅令第百

五十八號ヲ以テ本項中改正)

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因テ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少ナクトモ十萬圓ノ拂込ヲ完結タル後ニ非サルハ業務ヲ行フコトヲ得ス(同上ヲ以テ本項追加)

第三條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ贖金ヲ以テ之ニ充テシメシ解散ノ場合ニ於テ存留スル資本及其他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ一トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セス

營業保證金ハ營業開始前大藏省預金局預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ
第二類 取引所資本金、營業保證金、株式、手數料、 三百八十一
積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程、
仲買人免許料

テ其全額ヲ地方廳ニ納ムヘシ但國債地方債證券ヲ以テ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ

資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限マテニ其手續ヲ爲スヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株金ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ利益ヲ會員ニ分配スルノ目的ヲ以テ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徵收スル手数料ハ取引所ノ組織、賣買ノ物件、賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應シ賣買約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ヲ認ムルキ限前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ定率ヲ改定セシムルコトヲ得

第七條ノ二 株式會社組織ノ取引所ニ於テ株主ニ配當スヘキ利益カ拂込金額ニ對シ年一割ヲ超ユル場合ニ於テハ一割ヲ控除シタル殘額カ一割未滿ナルトキハ其ノ十分ノ三、二割未滿ナルトキハ其ノ十分ノ四、二割以上ナルトキハ其ノ十分ノ五ヲ賠償責任ノ準備トシテ積立ツヘシ(三十五年勅令第百五十八號ヲ以テ本條追加三十六年同第百二十七號ヲ以テ本項改正)

前項ノ積立金額資本金額ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ準備ノ積立金トシテ積置クヘシ但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ヲ支出セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二類 取引所資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程、三百八十三
仲買人免許料

第九條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ身元保證金ヲ供託スヘシ(三十五年勅令
第五百五十八號ヲ以テ追加)

第十條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ直取引、延取引及定期取引ノ市場ヲ開
閉スヘシ但定款ヲ以テ定例及臨時休業ヲ爲スノ場合ヲ規定スルコトヲ得

第十一條 取引所ノ賣買取引ノ契約ハ現物、見本文ハ銘柄ニ依リ取結スヘシ

第十二條 取引所ノ賣買取引ノ契約履行ノ期限ハ當日ヨリ起算シ直取引ハ五日
以内延取引ハ百五十日以内賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ三箇月以内
取引所指定ノ限月ニ依ルヘシ(三十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ改正)

第十三條 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

一 單位ヲ定メテ賣買スルノ方法

二 競賣買ヲ爲スノ方法

三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商
品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

四 株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ

取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法(三十五年勅令第五百

十八號ヲ以テ本號中追加)

五 賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法

取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ

農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

取引所ハ特ニ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ直取引及延取引ニ於テモ亦賣買雙方ヨ

リ證據金ヲ差出サシムルノ方法ヲ用ウルコトヲ得

第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ノ氏名賣買

品ノ數量及其價格ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 賣買取引ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ

第十六條 取引所ノ仲買人免許料ノ金額ハ百圓トス(三十五年勅令第五百十八

號ヲ以テ本條中改正)

第二類 取引所稅法

●取引所税法

(明治二十六年三月三日) 法律第六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル取引所税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所税法

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券

賣買各約定代金高萬分ノ六箇

一 國債及地方價證券

同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ

管廳ニ届出ヘシ

取引所税額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其

ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ

百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十九錢以下ノ

料料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

附則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

第二類 保險業法

●保險

●保險業法

(明治三十三年三月二十日)
法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
保險業法

第一章 總則

- 第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス
- 第五條 損害保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 事業方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

第六條 生命保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
- 二 保險契約無効ノ原因
- 三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
- 四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
- 五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
- 六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ

第二類 保險業法

有スル權利義務

七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍

第八條 第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ本法及ヒ第五條並ニ第六條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ

受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 保險會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ事業ノ停止若クハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍

二 設立費用償却ノ方法

第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事

第二類 保險業法

項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百四十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セ

第二十一條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併契約書及ヒ各會社ノ財産

目錄並ニ貸借對照表ヲ損害保險ニ在リテハ各被保險者ニ生命保險ニ在リテハ各保險契約者ニ送付シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ノ催告ヲ發

スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス 被保險者又ハ保險契約者カ前項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサ

ルシキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ述ヘタル者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

會社カ前項ノ規定ニ依リテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル者ニモ對抗スルコトヲ得

會社カ被保險者又ハ保險契約者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ會社カ催告ヲ爲ササリシ者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十三條 第七十三條第二項、第七十四條及ヒ第七十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因

リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス 第二十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條第一項ノ規定ニ依

第二類 保險業法

ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其者ノ保險金額カ
會社ノ保險金額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ
記名捺印スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 基金ノ總額

五 基金ノ釀出者カ有スヘキ權利

六 社員ノ責任ノ種類

七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八 剩餘金分配ノ方法

九 會社カ公告ヲ爲ス方法

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ

附スルコトヲ要ス

第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス

第三十條 發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證ニ通ニ保險

ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ

主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ

此限ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二類 保險業法

- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第二十六條ニ掲ケタル事項
- 三 基金ノ贖出者ノ氏名、住所及ヒ其各自ガ贖出スル金額
- 四 發起人ノ氏名、住所
- 五 發起人ガ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額
- 六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數
- 第三十一條 社員ガ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス
- 創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
- 第四十三條及ヒ商法第五百十六條第二項、第二項、第六十一條第三項、第四項、第六十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
- 第三十二條 社員ガ豫定ノ數ニ滿チタル後六个月内ニ發起人ガ創立總會ヲ招集

セサルトキハ申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

- 第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス
- 第三十四條 取締役ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

- 第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十五條、第一百十九條、第一百三十三條及ヒ第三百二十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第二節 社員ノ權利義務

第二類 保險業法

第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

- 一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ
- 二 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
- 三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十九條 社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ釀出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其釀出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人チシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第三節 會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 商法第五十六條第一項、第二項、第五十七條第一項、第五十八條第一項、第五十九條、第六十一條第二項、第三項、第四項及ヒ第六十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス

第二類 保險業法

第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス

第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社員ノ氏名、住所

二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料

三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルト

キ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員力之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 商法第百六十五條乃至第百六十七條、第百六十九條、第百七十條、

第百七十四條第二項、第百七十六條、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員力之ヲ取締役ニ請求シ

第二類 保險業法

タルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス
此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第百八十五條第
一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ
要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條 商法第百六十七條、第百七十九條乃至第百八十四條、第百八十五
條第一項、第百八十六條及ヒ第百八十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ
準用ス

第四節 會社ノ計算

第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコ
トヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準

備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

毎年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ
定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ
準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコト
ヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ釀出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス
第六十條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコト
ヲ要ス

第六十一條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員
ニ之ヲ分配ス

第六十二條 商法第百九十條乃至第百九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ

第二類 保險業法

準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 死亡

三 破産

四 保險關係ノ消滅

第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當タリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ

第二類 保險業法

拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保険料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立期時ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 社員カ百人未滿ニ減シタルコト
- 三 社員總會ノ決議
- 四 合併
- 五 破産
- 六 免許ノ取消

第七十三條 任意ノ解散及ヒ合併ノ決議ハ總社員ノ半数以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十四條 合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因

リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ一个月内ニ生シタルトキニ限り保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一 一般ノ債務ノ辨濟
- 二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂

三 基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第八十二條 第四十四條、第五十一條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條、第一百五十九條、第一百六十三條、第一百七十六條、第七十七條、第八十一條、第八十三條、第八十四條、第八十五條第一項、第九十三條、第二百二十六條、第二百二十七條、第二百二十八條第一項、第二百三十條第一項、第二百三十一條乃至第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 補則

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之

第二類 保險業法

ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 社員名簿

三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證

四 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

五 創立總會ノ決議錄

第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十六條乃至第三百三十九條、第四百十一條乃至第四百六十五條、第四百七十三條、第四百七十四條第二項、第四百七十五條乃至第四百七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第一項、第二項及ヒ第四百九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第九十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第四章 計算

第二類 保險業法

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス
第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 保險事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ト損益保險トヲ併セテ營ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ本法ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメス又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セサリシトキ
- 六 第十九條ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ
- 七 第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

第二類 保險業法

八 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十九條 相互會社ノ發起人、取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ

ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ

通知ヲ爲シタルトキ

三 第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項

ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 定款、社員名簿、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、

損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關

スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之

ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 商法第八十一條ノ規定ニ依ル監查役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

第百條 相互會社ノ發起人、取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十

圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第五十六條乃至第六十條ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ、其利息ヲ支拂

ヒ又ハ剩餘金分配ヲ爲シタルトキ

三 第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シタルトキ

四 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ

合併ヲ爲シタルトキ

五 商法第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請

求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル

過料ニ之ヲ準用ス

附則

第二類 保險業法

第二百二條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百三條 商法施行法第九十五條乃至第一百十六條ハ之ヲ削除ス

第二百四條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ保險ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三百二十四條第一項、第三百三十五條及ヒ第三百三十五條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第二百七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第二百八條 第三條、第四條、第八條乃至第十三條、第七十三條第二項及ヒ第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス

第二百九條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テサルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第一百十條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十二條

又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第一百十八條、第二百二十一條

第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百一十條 第九十二條及ヒ第九十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資

會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十二條 第二十條乃至第二十二條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本法施行前ニ設

立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十三條 第九十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執

行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第一百十四條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百四條又ハ第九

條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之

ヲ準用ス

第一百五條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ

營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●保險業法施行規則

(明治三十三年七月二日)
(農商務省令第十五號)

保險業法施行規則左ノ通相定ム

保險業法施行規則

第一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及ヒ第六條ニ定メタル書類ヲ

添附スルコトヲ要ス

第二條 發起認可ノ申請ハ株主又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之

ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要

ス

申請書ニハ保險業法第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ノ外非訟事件手續法第

第二類 保險業法施行規則

百八十七條第二項第二號乃至第六號及第七號九號ニ掲ケタル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號第三號及ヒ第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第六條 保險會社ハ保險證券並ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及ヒ第七號ニ定メタル權利ノ範

圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額其標準若クハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス

保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込免除ノ爲メニ保險金額ヲ減少スヘキコトヲ定メタルトキ亦同シ

第九條 保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ掲ケタル各方法ニ付キ其五分ノ

一ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無擔保貸付ヲ爲スコト

二 同一人ニ貸付又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト

三 同一會社ノ株券若クハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

四 同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

第二類 保險業法施行規則

前項第二號及第三號ニ掲ケタル方法ニ依リテ利用シタル金額ハ之ヲ通算ス

第十條 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及ヒ監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件
- 二 事業ノ成績(第一號書式ニ準ス)

- 三 生命保險及ヒ火災保險ニ在リテハ統計(生命保險ニ在リテハ第二號乃至第七號書式、火災保險ニ在リテハ第八號書式ニ準ス)

第十一條 財産目錄、貸借對照表、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 財産目錄ノ一項目中ニ價額三千圓以上ノモノアルトキハ其項目ノ内譯トシテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條 財産目錄及ヒ貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スヘカラス

第十四條 保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

- 一 事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルトキハ其金額
- 二 事業年度ニ於テ生シタル事故ノ爲メニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

第十五條 生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及ヒ未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス

第十六條 生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ貸借對照表中責任準備金ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十七條 生命保險會社ノ未經過保險料ハ箇箇ノ契約ニ付キ之ヲ計算セサルト
第二類 保險業法施行規則
四百二十三

キハ其事業年度ニ收入シタル保険料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(再保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス)中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲メニ支拂ヒタル保險金額(再保險者ヨリ得タル保險金額ヲ控除ス)其契約ノ爲メニ積立ツヘキ支拂備金及ヒ其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第十九條 損害保險會社カ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲ爲ストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付キ前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス
會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及ヒ前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ増額ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ終了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十二條 任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ掲ケタル書類ノ外理由書、總會ノ決議錄及ヒ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ノ認可アリタル後六个月内ニ合併ノ手續ニ著手セサルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ

第二十四條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ本店又ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス
前項ノ書類ハ強靱ナル美濃判大ノ紙料ヲ用ユルコトヲ要ス但印刷物ハ此限ニ

在テス

第二十五條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價額ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル内外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十七條 前二十四條ノ規定ハ保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス但保險業法施行ノ日ヨリ六個月間ハ第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十八條 保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ノ定款ノ規定ニシテ本則ノ規定ニ抵觸スルモノハ其施行ノ日ヨリ六個月内ニ之ヲ改ムルコトヲ要ス

第二十九條 保險業法施行前ニ設立シタル會社カ其財産ヲ利用シタル方法カ第九條ノ制限ニ反スルモノ之ヲ改ムルコトヲ要セス但保險業法施行ノ後其利用ノ方法ヲ變更スルトキハ第九條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十條 商法施行前ニ設立シタル合名會社又ハ合資會社ニシテ保險ヲ目的トスルモノカ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲サントスルトキハ其認可申請書ニ理由書、決議録、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

第三十一條 明治三十二年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス
(書式略ス)

●外國保險會社ニ關スル件 (明治三十三年九月二十六日勅令第三百八十號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ外國保險會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス

商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二類 外國保險會社ニ關スル件(勅令)

第二條 外國會社ハ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第三條 外國會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 日本ニ於ケル事業ノ方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

五 最終ノ財産目錄、貸借對照表及損益計算書

六 生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類

前項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第四條 外國會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ其日本ニ於ケル事業ノ停止若クハ代表者ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第五條 主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ外國會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

外國會社カ供託ヲ命セラレタル場合ニ於テハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ其金額ニ代フルコトヲ得

第六條 日本ニ於ケル保險契約者、被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ外國相互會社ノ社員ハ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七條 外國相互會社ノ日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ社員及ヒ外國ニ於ケル債權者ニ對シ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

第八條 外國會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其日本ニ於ケル事業ノ報告書ヲ作り之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九條 外國會社ノ本國ニ於テ作りタル財産目錄、貸借對照表、事業報告書及

第二類、外國保險會社ニ關スル件(勅令) 四百二十九

七 損益計算書ハ遲滞ナク之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第十條 外國會社ノ代表者ハ定款、日本ニ於ケル社員ノ名簿及ヒ前二條ニ掲ケタル書類ヲ日本ニ於ケル事業ノ本據ニ備フルコトヲ要ス

日本ニ於ケル保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ前二條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第十一條 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リテ優先權ヲ有スル者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供スルニ非サレハ供託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 主務官廳カ日本ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル外國會社ノ免許ヲ取消シタルトキハ其處分確定ノ後遲滞ナク其旨ヲ支店又ハ事務所ノ所在地ノ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ支店又ハ事務所ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第十三條 外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 本令ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 第八條又ハ第九條ニ掲ケタル書類ヲ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第十四條 外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ

第二類 外國保險會社ニ關スル件(勅令)